

国立国会図書館所蔵

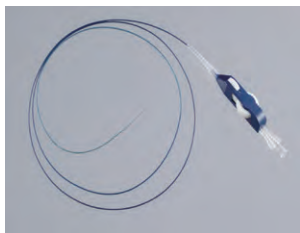


# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

8

働きがいも  
経済成長も

住友ベークライトは幅広い分野の製品を生産・販売しており、用途も多岐にわたります。その中でも特にSDGsへの貢献が大きい製品を「SDGs 貢献製品」として認定し、普及を促進することでSDGs達成に貢献しています。



## ステアリングマイクロカテーテル 「レオニスムーバ®」

血管内治療デバイスに特化した、低侵襲治療のためのカテーテル。手元ハンドルのダイヤル操作で、極細のカテーテル先端を自由に患部の血管まで到達させることで、的確な造影や抗がん剤などの薬剤投与を実現。施術時間を短縮できることから、医療従事者や患者様の負担を軽減します。

# 薬匙

やくさじ

## 医師の手技を 示した、匙加減

「敵医者<sup>①</sup>の投げたを救う銀の匙」は、江戸時代の医師の様子を詠んだ川柳のひとつ。治療を放り出したヤブ医者<sup>②</sup>の患者を、別な医者<sup>③</sup>が代わって救うという内容です。銀の匙とは、当時の本道<sup>④</sup>と呼ばれた内科医が使っていた、漢方薬を調合する薬匙のことです。

医師は薬剤師も兼ねており、患者の顔色や脈などを観察した情報をもとに、金属や牛角など素材や大きさも様々な薬匙で薬を量りながら治療薬を処方しました。的確な匙加減で処方ができる医師は、「匙が回る」手技を持っていると評判になりました。

一方、外科の医師は刀傷などを治すことから金創医<sup>⑤</sup>と呼ばれ、簡単な切開や縫合の手術も行いましたが、麻酔薬は十分なものがなく、命を救うために患者の苦痛はある程度仕方がないという時代でした。

当時の医師が患者のために病と闘ってきた姿勢はそのままに、より苦痛のない低侵襲治療を実現したのがプラスチックの加工技術を究めて完成した住友ベークライトのマイクロカテーテル。それは医療従事者と患者様の負担を軽減し、暮らしを支援するデバイスと言えますし。

プラスチックのパイオニア

**住友ベークライト株式会社**

ヘルスケア営業本部

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目5番8号 天洲パークサイドビル  
TEL:03-5462-4111 FAX:03-5462-4873 <https://www.sumibe.co.jp>